

I-G3-2 妊娠糖尿病（GDM）に対する食事療法と体重増加に関する検討

三重大学産科婦人科学講座

前田 洋一、杉山 隆、前川 有香、日下 秀人、
豊田 長康

【目的】妊娠時の肥満・非肥満耐糖能異常女性に対し、 $30\text{kcal}/\text{kg} \times \text{標準体重}(\text{kg}) / +200\text{kcal}$ の食事療法を行っている。本食事療法に基づくGDMの体重増加度と周産期予後に関する関連を検討した。【成績】GDM 94例の妊娠時の体重増加度[体重減少群、体重増加群（0～5kg未満、5～10kg未満、10kg以上）]と周産期諸因子の関連を認めなかった。妊娠前の肥満の有無と周産期因子の間に関連はなかった。非肥満・肥満群の体重増加はそれぞれ $7.6 \rightarrow 3.8\text{kg}$ 、 $3.8 \rightarrow 5.7\text{kg}$ で、妊娠末期のHbA_{1c}値の差もなかった。【結論】当科のGDMに対する食事療法はほぼ妥当であり、GDMに対する本食事療法を基本にインスリンを用いた血糖コントロールを図るいわゆる“euglycemic diet”が重要と考えられる。